

高等学校福祉科「こころとからだの理解」学習指導案

指導者 教諭 小澤登生男
令和4年11月8日 5時限
学級 第3学年7組 16名
使用教室 介護実習室

1. 科目 「こころとからだの理解」
2. 単元名 認知症の理解 ～認知症の基礎的理解～
3. 単元の目標

介護福祉士国家試験の出題範囲なかで、とりわけ出題率の高い認知症についての理解を深めていくことを目標とする。本日の授業内容は、認知症の主な病気を理解するとともに、中核症状である記憶障害について再確認し、特に「前頭側頭型認知症（ピック病）」の特徴を取り上げ、他の認知症の特徴と比較しながら理解を深める。また、授業中に介護福祉士国家試験の練習問題や過去問題を解くことにより、その知識を高めていく。

●4観点での目標

- [関心・意欲・態度] 認知症の原因となる主な病気に関心を持ち、それらの症状の特徴や相違を科学的に考察するとともに、認知症当事者の視点を理解する態度を身につけている。
- [思考・判断・表現] 認知症の主な病気について考え、それらの症状の特徴や相違を判断し、具体的に表現することができる。
- [技能] 認知症の原因となる主な病気の特徴などを探究する技能を身につけている。また認知症当事者のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護技術を身につけている。
- [知識・理解] 認知症に関する基礎的知識を系統的に理解している。

●3観点での目標

- <知識・技能> 認知症に関する基礎的知識を系統的に理解し、認知症の原因となる主な病気の特徴などを探究する技能を身につけている。
- <思考・判断・表現> 認知症の主な病気について考え、それらの症状の特徴や相違の判断ができ、具体的な症状の特徴や相違を表現することができる。
- <主体的に学習に取り組む態度> 認知症の種類や特徴、相違についての発問に対する意欲的な発言をしている。プリントを項目ごとにしっかりと記入ができる。

4. 指導上の考察

(1) 生徒について

本校介護福祉コースは、高齢者をはじめとする福祉に関する専門的な知識や技術を身につけ、福祉の様々な分野で介護を担うスペシャリストを育てることを目標としている。

令和4年度の3年生は、男子1名・女子15名の16名で、令和5年1月に行われる第35回介護福祉士国家試験の受験を控え、毎日の授業のほかに放課後補習や冬休み課題を行い、合格を目指し勉強している。また、10月からは毎月1回、模擬試験を行っており、苦手科目の克服と、自分の実力とを照らし合わせながら、さらなるレベルアップできるよう勉学に勤しんでいる。第30回から第34回の5年間の国家試験において、認知症に関する問題は、毎年9問から13問出題されており、この範囲の出題率は高く重要なため、より理解を深めていく必要がある。

(2) 題材について

平成21年に介護福祉士の養成カリキュラムが改正され、「新しい介護福祉士養成カリキュラムの基準と想定される教育内容の例」によれば、「こころとからだのしくみ」の教育内容の中には、「認知症の理解」があり、そのねらいには、「認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする」とある。また、教育に含むべき事項のうち、「医学的側面から見た認知症の基礎」として、想定される教育内容には、「認知症の原因となる主な病気の症状の特徴」があり、主な5つのタイプとその他の例が示されている。その中でも教科書で扱われている認知症の疾患頻度が高い4つの病気の特徴を取り上げていく。生徒たちは、介護実習の中で認知症の方々と接してきた経験はあるが、イメージは湧きつつも主な4つのタイプの特徴を見極めるのは困難である。本時は、認知症の中核症状である記憶障害について再確認をし、特に「前頭側頭型認知症（ピック病）」の特徴を取り上げ、他の認知症の特徴と比較しながら理解を深める。

(3) 指導について

- ・ 認知症を理解するには、ほぼ共通して見られる中核症状と、その二次的に出現する周辺症状について把握していることが重要となってくる。例えば、認知症のために記憶に障害が起これば、人の顔や場所などを新しく覚えることが困難になる。授業では、記憶のメカニズムを復習しながら記憶についての種類を学習し、認知症の人が安心して生活できるよう認知症介護について考える機会としたい。
- ・ 認知症の種類とその特徴を理解することによって、認知症の症状から見られる行動から、その方の意図する行動を察知し、認知症介護が工夫できる態度を身につけたい。
- ・ 認知症の方の身体的・精神的理解、社会的立場などあらゆる角度からの理解、つまり全人的理解をすることによって、認知症の当事者にとっても介護者にとってもより良い関係性ができることが求められる。

5. 指導計画（全15時間）

- (1) 認知症介護の歴史と理念、認知症高齢者の現状と今後…1時間
- (2) 認知症に関する行政の方針と施策、認知症による症状…2時間
- (3) 認知症の診断・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- (4) 認知症の主な病気の特徴・・・・・・・・・・・・4時間（のうち本時1時間）
- (5) 若年性認知症、認知症の薬物療法・・・・・・・・2時間
- (6) 認知症の人の特徴的な行動・心理・・・・・・・・2時間
- (7) 認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響・・・・・・・・1時間
- (8) 地域におけるサポート体制、家族への支援・・・・・・・・1時間

6. 評価の観点と方法（4観点）

ア、関心・意欲・態度	イ、思考・判断・表現	ウ、技能	エ、知識・理解
①認知症の原因となる主な病気に関心を持ち、それらの症状の特徴や相違を科学的に考察するとともに、認知症当事者の視点を理解する態度を身につけている。	①認知症の主な病気について考え、それらの症状の特徴や相違を判断し、具体的に表現することができる。	①認知症の主な病気の特徴などを探究する技能を身につけている。 ②認知症当事者のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護技術を身につけている。	①認知症に関する基礎的知識を系統的に理解している。 ②認知症の特性や言動の意味を理解し、介護技術に役立てている。
[授業中の参加・学習態度の様子を観察]	[授業中の参加・学習態度の様子を観察]	[単元全体にて学習態度の様子を観察]	[授業中の参加・学習態度の様子を観察]

評価の観点と方法（3観点）

ア) 知識・技能	イ) 思考・判断・表現	ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①認知症に関する基礎的知識を系統的に理解している。 ②認知症の主な病気の特徴などを探究する技能を身につけている。	①認知症の主な病気について考え、それらの症状の特徴や相違を判断し、具体的に表現することができる。	①認知症の症状の特徴や相違を科学的に考察するとともに、認知症当事者の視点を理解する態度を身につけている。 ②発言やプリントの記入を積極的かつ主体的に取り組んでいる。
[単元全体にて学習態度の様子を観察]	[授業中の参加・学習態度の様子を観察]	[授業中の参加・学習態度の様子を観察]

7. 本時の授業

(1) 目標

- ・認知症の中核症状である記憶障害のメカニズムを復習しながら再確認し、認知症の人が安心して生活できるよう認知症介護について関心を持ち、どのような介護が適切か判断」できるようになる。【思考・判断・表現】
- ・「前頭側頭型認知症（ピック病）」の特徴を取り上げ、認知症の主な4つのタイプの特徴と比較しながら理解を深めていく。【知識・技能】
- ・認知症に関する介護福祉士国家試験練習問題やブログに触れることにより、認知症への知識を高めていく。

(2) 準備物

- ・教科書 ・ノート ・ファイル ・プリント ・介護福祉士国試ナビ ・脳の模型

(3) 指導過程 (50分)

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする、出席の確認 ・前時までの振り返り ・発声練習、アイスブレイク ＜手指の体操を行う＞ ・本時の授業内容を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間から気持ちを切り替えさせ、出席をとる ・教科書、ノート、ファイル、筆記用具など学習に必要なものが準備されているか確認させる ・緊張がほぐれるよう大きな声でゆっくり発声させ、リラックスさせる ・授業内容の確認をする 	4 観点のまま
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読む ＜前頭側頭型認知症（ピック病） p 107＞ ・前頭側頭型認知症について、他の認知症との違いを考え発表する ・プリント①②記入する ・脳の模型を見る ・認知症の国家試験練習問題を解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を指名して、教科書を読ませ、その箇所の感想を発表させる ・他の認知症との違いには、どういうところがあるか発問する ・前頭側頭型認知症について説明しながらプリントを記入させる ・脳の模型を見せ、記憶に関する部位を説明する ・認知症の国家試験の例題について説明し解かせ、解答を示し解説をする 	アー① イー① エー① イー① エー① アー① エー①
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント③を記入する ・本日の振り返り ・挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント③を説明しながら本日のまとめをする ・終わりの挨拶をしっかりさせる 	アー① イー① エー①

8. ユニバーサルデザイン授業の観点 (全ての生徒が「分かる・できる」授業展開)

(1) 授業環境整備の観点

- ・授業のための室温設定、換気などを適切なものとする
- ・授業で使用する備品等（机・椅子・教卓等）に不具合がないかを確認する
- ・生徒の教科書、ノート、ファイル、介護福祉士国試ナビ、筆記用具など学習に必要なものが準備されているかを確認する

(2) 授業視点の導入

- ・視覚化——・教科書、プリント、介護福祉士国試ナビや脳の模型を参照させながら確認を繰り返させ、認知症について理解を深めさせる
- ・共有化——・本日の時程を板書、説明しながら授業内容および流れを共有化する
 - ・認知症に関するプリントの内容を確認しながら、発問に対する生徒の答えの中から理解度を共有化していく

(3) 課題解決の設定

- ・導入においては、アイスブレイクとして手指の体操を行い、リラックス効果を図り、授業に対する集中度を促す
- ・復習および発問を繰り返すことによって、授業参加への意欲と態度、関心への意識づけを行い、重要な箇所を忘れがちな課題への解決へと導いていく
- ・授業において、集中力が途切れてしまう課題については、生徒たちにとって実践的であったり、現実味のある話をしながら集中できるような解決を図る

教科書『こころとからだの理解』（実教出版株式会社）

第4編 認知症の理解

第2章 認知症の基礎的理解

第3節 認知症の主な病気の特徴（p104～）